

むし歯を削らない、歯を抜かない&一生自分の歯で食べるための発想転換

“むし歯を削る、詰め物やかぶせ物をする”から脱却しましょう

従来の歯科医院では、むし歯を見つけたら削って詰める、かぶせ物をつける、あるいは神経を取るなどの治療が主に行われていました。また、歯周病になってから、歯石を取るなどの治療が主流でした。しかしながら、このような治療だけでは虫歯や歯周病が再発し、削って詰めた歯や、神経を取った歯は、寿命が短くなり抜けていくことが、明らかになってきました。

予防歯科と低侵襲性治療、メンテナンスを受けて“一生自分の歯で食べよう”

まずは、むし歯や歯周病にならないように、予防歯科を歯科医院

で受けることが肝要です(図1)。次に、仮にむし歯や歯周病になっても、歯を削る、詰める、神経を取る治療をできるだけ避け、歯にダメージを加えない低侵襲治療を受けることが大切です。小さなむし歯は、削らずに再石灰化で治すこともできるようになりました。大きなむし歯もできるだけ歯を削らない、神経を抜かない治療を選択することが大切です。歯を削り、神経を取ると歯の寿命が短くなるからです。さらに、治療が終わったら、定期的にメンテナンスを歯科医院で受けるようにしましょう。

メンテナンスとは、通常2〜5ヶ月に1回、じっくりと1時間程度かけて予防歯科を受けることです。メンテナンスを行うと、むし歯や歯周病の再発はほとんどゼロになり、“一生自分の歯で食べる”ことが確実にできます(写真1)。

“予防歯科”への発想の転換が大切

“むし歯を削り詰め物やかぶせ物をするために歯科医院に通院する”から、“予防歯科を受け、むし歯や歯周病の治療をしないために歯科医院に通う”へ発想の転換をしませんか?そして、詰め物のためには時間やコストを使うことに“サヨナラ”して、自分の歯を削らない、抜かない、治療をしないために、時間やコストを使いましょ。歯科医院で、予防歯科を受け、“健康的に自分の歯で一生食べる”は確実に実現できます。ぜひ、専門家にご相談下さい。

※予防歯科、高度先進医療は保険外診療になることがあります。

図1 予防歯科の主な内容(当院の例)

- ・虫歯や歯周病の感受性を知るリスク検査、口腔内写真、エックス線検査、歯周病検査、虫歯の検査
- ・症状、リスクにあった、虫歯菌や歯周病原菌の徹底的な退治
- ・フッ化物の適正な使用
- ・ホームケアの指導
- ・2〜5ヶ月毎にじっくりと約1時間かけてのメンテナンス

写真1

予防歯科、低侵襲性治療、長期間のメンテナンスを受け、“歯を削らない、抜かない、治療しない”を実践し、良好な口腔健康を維持している症例



30歳女性、20年の予防歯科で28本が自分の歯、削った歯、抜いた歯は0



46歳男性、20年の予防歯科で28本が自分の歯、削った歯、抜いた歯は0



74歳女性、19年の予防歯科で28本が自分の歯、削った歯、抜いた歯は0



81歳男性、18年の予防歯科で24本が自分の歯、抜いた歯は1本のみ



医療法人
くらのうえ市丸歯科
院長市丸英二先生

長崎大学歯学部大学院卒業後、米国スタンフォード大学医学部研究員を務める。長崎大学臨床教授、日本歯周病学会認定専門医・指導医、日本口腔インプラント学会インプラント専門医として活動中。

TEL.0942-81-5410
住/島根市東上2丁目187番地 URL www.10shika.jp